

学校給食費に係るアンケートの結果について

1 アンケート対象家庭及び実施期間

小中学校児童生徒全家庭(中学校3年生は除く。)に、平成28年10月13日から同月20日までの期間で実施した。

2 アンケート配布数等

配布数 6,134枚 回収数 3,961枚 回収率 64.6%

3 1食あたりの学校給食費の改定(案)

区分		改定前 (円)	改定後 (円)	値上げ額 (円)	年間給食回数 (回)
小学校	1・2年生 (月額)	247 (4,200)	257 (4,369)	10 (169)	1年生177 2年生187
	3・4年生 (月額)	266 (4,530)	278 (4,726)	12 (196)	187
	5・6年生 (月額)	286 (4,870)	298 (5,066)	12 (196)	187
中学校	全学年 (月額)	318 (5,210)	333 (5,449)	15 (239)	180

4 アンケートの回答結果

(1) 給食の水準を維持し、現行の回数で実施するためには、改定もやむを得ない。	94.0%
(2) 改定はせずに給食回数を減らし(年8~10回)、その分を弁当に変更等の措置もやむを得ない。	2.3%
(3) その他	3.7%

5 アンケートに記載された主なご意見

給食についての感謝が一番多く、次に牛乳についての意見(牛乳を無くすなど)が多くあった。その他少数意見としては、献立の工夫、全体量を減らす、学校給食の無償化、値上げ分について公費負担等の意見もあった。

6 アンケートに記載された意見について

主なご意見	見解
(1) 給食に感謝、おいしい	励みになる言葉を多数いただき感謝申し上げます。今後も児童生徒に喜ばれる安全でおいしい給食を作ってまいります。
(2) 牛乳を無くす、米飯に合わない	文部科学省の「学校給食摂取基準」を運用し献立を各校ごとに作成しています。この基準は、同省が行った「食生活等実態調査」及び(独)日本スポーツ振興センターが行った「食事状況調査」これらの調査結果を勘案し、望ましい栄養量を計算したものです。この食事状況調査の結果によれば、カルシウム摂取に効果的である牛乳等の使用について配慮することとされています。 今後、児童生徒等の食生活が変化したり、牛乳以外でカルシウム等が摂取できる食品を取り入れることができる状況があれば、給食のスタイルも変わることもあるかも知れませんが、今後、栄養士会で研究していきます。
(3) 献立の工夫、全体量を減らす	文部科学省の「学校給食摂取基準」を運用し各校ごとに献立を作成し、必要な栄養量を算出していますので、全体量を減らすことはできません。献立については、さらに研究をしていきます。
(4) 学校給食の無償化、値上げ分の公費負担	学校給食法第11条では、学校給食費は保護者の負担とすることが明記されております。ご理解をお願いいたします。